

8. 可視光線重合型コンポジットレジン修復の色調選択に関する検討(一般講演)(東日本歯学会第14回学術大会(平成8年度総会))

著者名(日)	荊木 裕司, 尾立 達治, 小林 俊介, 平本 正樹, 永井 康彦, 松田 浩一
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	15
号	1
ページ	41
発行年	1996-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008123/

変色歯に対して、35%過酸化水素を主成分とするHilite (SHOFU DENTAL Co USA) を用いた漂白法を行ったので報告する。

治療回数は4回で、1回の治療で本薬剤による漂白法を2回行い、その結果色調はVITAのシェードガイドでC3, 4からA1, 2に改善した。今回の治療の特徴的な点は1. 写真の撮影時には写真の撮影、現像等の条件が変わってくるので、VITAのシェードガイドを色標として一緒に撮影した。2. 漂白対照歯面を研磨後、ポリアクリル酸でクレンジングした。これは歯の表面に付着

しているペリクル等を除去し薬剤を浸透しやすくするためである。3. 漂白後フッ素を塗布した。これは漂白後の後戻りを防止し荒れたエナメル質にフルオロアパタイトを作り歯を保護にするために行った。またボンディング剤も効果的であった。4. 1週間後、漂白が不完全の場合には漂白の操作を再度行った。5. 色差計等による客観的な色調判定も併用した。漂白処置終了後、歯髄への影響を確認する意味で再度、生活歯髄診断を行った。以上の様な方法を併用し有髄変色歯に対し著しい効果が得られた。今後症例数を増やし報告する予定である。

8. 可視光線重合型コンポジットレジン修復の色調選択に関する検討

○荊木 裕司, 尾立 達治, 小林 俊介
平本 正樹, 永井 康彦, 松田 浩一
(歯科保存学第二講座)

結果と考察

- 1) コンポジットレジン症例において、前歯Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ級修復に使用されているシェードはA2, A3, A3.5, A4, B2, B3, B4の7色であった。
- 2) 中切歯, 側切歯ではⅢ, Ⅳ, Ⅴ級修復ともシェードはA3が最も多く24~35%であった。犬歯ではⅢ, Ⅴ級でA3.5が最も多く、38%, 26%であった。総合的にはA3, A3.5で60%以上を占めていた。この点はアンケート調査の結果と一致していた。
- 3) 色調適合性の不良を理由として再修復がおこなわれる症例数は、少なくないことが、アンケート調査から判明した。また、修復物の色調適合性についても満足とはいえない状況が確認された。
- 4) シェード選択の際の照明については、複数の照明による色調選択が推奨されているが、70%以上の医局員が単一の照明で行っていることが判明した。このことが色調適合性の低下の一因となっていると推測される。

コンポジットレジン修復や、前装冠, ジャケット冠による補綴等に代表される審美性材料による処置において、これらの修復物の色調選択は診療の成果を左右する重要な作業である。通常、色調の選択はシェードガイドによる比色法が一般的であるが、色調が適合せず、再修復が必要となるケースが臨床では少なくない。これらの原因として、歯質材料間の光学的性質の相違, 照明, 術者のシェード選択の誤り等が考えられる。より高い色調適合を得るためにはまず、現在の色調選択の状況を把握する必要がある。そこで、今回我々は、本学における色調選択の状況について、使用シェードガイド, 環境, 等を補綴, 保存4講座の医局員(50名)に対するアンケート調査より検討した。さらに、修復物については、歯学保存学第二講座医局員(13名)によって平成7年10月~12月に修復された前歯コンポジットレジン修復(253例)について、選択された色調と歯種, 窩洞との関係を診療録より調査し、併せて検討した。